

筆談・コミュニケーション補助アプリを活用した事例

～アプリを活用した事例～

取組の 難易度	(準備) ★ ☆ ☆		
	(教員のICT活用能力) ★ ☆ ☆		
校種・学年	小・中学校・全学年	教科等	自立活動、国語等
ICTを活用した 学習場面	B1 個に応じる学習	領域・ 分野等	心理的な安定 コミュニケーション
ICT 機器等の 準備等	準備	「筆談」・「コミュニケーション」等の機能があるアプリをタブレット端末にインストールする。 ※関係するアプリの一例 iOS「筆談パット」、Android「UD手書き」等	
	授業	学習者用PC（タブレット端末）	

1 事例の概要

【自立活動】

- ・特別支援学級や通級指導教室において、コミュニケーション能力やソーシャルスキルを高めるため、例えば、今の自分の気持ちや今日の天気、動物・植物の名称等をタブレット端末に手書き入力し、授業者とのやりとり等を行う。
- ・難聴である児童生徒において、会話の大まかな内容は聞き取れることはできるが、正確に聞き取れないことがあるため、その文言をタブレット端末に手書き入力し、正しい文言の確認をする。また、会話の中で児童生徒の発音が不明瞭な音については、対象となる単語等を取り出してタブレット端末に入力し、正しい音で発音できるように指導する。

【教科別の指導 国語】

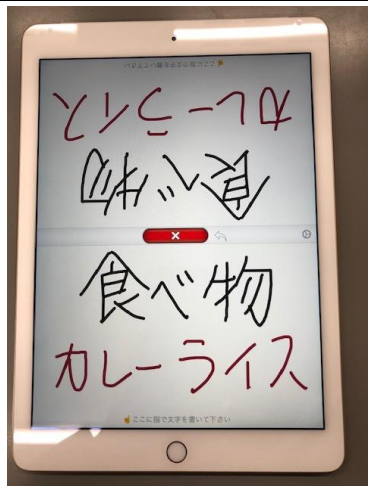
- ・漢字の学習を行う際、書き順についてタブレット端末を使って、一字一字丁寧に指で入力しながら指導する。
- ・作文を書く際、関連する単語をタブレット端末に入力し、後でその単語を見ながら、本人のペースで作文を書くことができる。

※利点○、配慮事項●

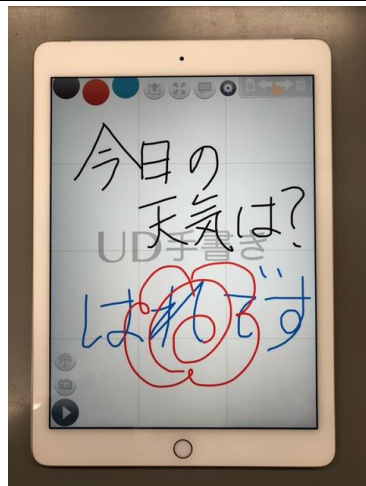
2 ICT 活用の利点や配慮事項

- アプリによっては、それぞれの向きで書いた文字が相手の向きで表示され、向かい合って個別指導することが可能である。
- タブレット端末に「○（正解）」「△（おいしい）」等の評価を直接書き込むことで、児童生徒のモチベーションを高め、発語を促したり、コミュニケーション能力を高めたりすることに期待が持てる。
- アプリ自体は非常に使いやすいため、保護者にアプリを紹介し、家庭でも保護者がアプリを活用しながら児童生徒と一緒に家庭学習ができる。
- タブレット端末に書き込んだ単語や文章、評価等は残らないので、残す必要があるときは紙に書き写したり、写真を撮ったりする必要がある。
- タブレット端末の画面の大きさには限りがあるため、書き込む単語や文章を少なくしたり、文字の大きさを小さくしたりする配慮が求められる。

3 資料



【資料1】筆談パット



【資料2】UD手書き



【資料3】筆順辞典

紹介したアプリの他にも、多くのアプリがあります。以下の役立つアプリの一覧図「ディスレクシアホイール」を児童生徒の実態に応じて参考にしてみてください。



【資料4】日本版ディスレクシアホイール

※ブログ「平林ルミのテクノロジーノートALT」を参照

<https://rumihibabayashi.com/dyslexiawheeljapanese/>

※ディスレクシアの判断がなくても、読み書きに困難がある児童生徒も参考になります。